

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170101436		
法人名	特定非営利活動法人 さわやか福祉ネットワークぎふ		
事業所名	グループホーム柳ヶ瀬		
所在地	岐阜市金町4丁目28番地		
自己評価作成日	令和7年8月20日	評価結果市町村受理日	令和7年10月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170101436-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・食事は全て手作りで提供します。季節の物を取り入れ利用者の希望に沿った献立を考慮しています。 ・医療依存度の高い利用者でも病院の付き添いや送迎介助の手伝いを行います。 ・家庭的な雰囲気の中、利用者、家族様に安心していただける介護の提供を心懸けています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>経験豊かな職員が多く、利用者とのコミュニケーションを通して気持ちを取り戻すことに優れている。その人の持つ残存能力を個別ケアの中で把握し、利用者が出来ることは見守り、出来ないことを介助する支援を行っている。事業所は、大きなひとつの家族のような環境の中、皆で大きな声で歌ったり、笑い声が響くなど、家庭的な雰囲気が感じられた。食事は、旬の食材を使った職員手作りで提供を継続し、グループホーム本来の運営に努めている。事業所での看取り希望も多く、医療関係者と連携しながら穏やかな終末期を過ごせる支援体制ができています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング等で話し合い地域との関係性の継続を図ります。地域からの目線で施設の運営について意見をもらいます。	「出会い、ふれあい、学びあい」を理念に掲げ、利用者に寄り添った個別ケアを大切にしている。職員は、馴れ合いになることなく、常に謙虚な気持ちで利用者と接し、気付いたことは職員間で共有しながら理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣での買い物やあいさつを通じて顔なじみの関係性を築いています。資源ごみの当番担当を受け持ち地域と交流しています。自治会会合の参加等。移動スーパーの買い物に参加していただきます。	開設時から自治会に加入しており、近隣とも長いつきあいが出来ている。地域の商店街での買い物や外出時には住民と挨拶を交わすなど、日常的に地域とつながりながらの暮らしがある。また、地域の一員としての役割を担い、介護に関する相談に応じることもある。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の行事を教えてもらう事や利用者の状況を報告して意見をいただきます。	運営推進会議には、自治会長、民生委員に加え、複数の地域代表の参加もあり、地域の情報を得ることが出来ている。会議では様々な意見が出ており、話し合いながらサービス向上に活かしている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者状況報告、介護保険制度についての相談や情報提供等協力していただいています。	市からの研修や集団指導の案内を受け、積極的に参加している。介護保険制度の改正や事業所運営に関する必要書類等について、不明な点があれば、直接、聞きに行き、助言・指導を得ている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングで拘束を行わないケアを定期的に話し合い拘束の有無について振り返りを行います。身体拘束廃止マニュアルを作成して周知しています。年2回委員会を実施します。	身体拘束等の適正化と虐待防止のための対策検討委員会として3ヶ月に1回、職員全員参加で実施している。身体拘束排除宣言を行い、拘束は行わない支援に徹し、利用者一人ひとりの状態変化を職員間で共有している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の表情などの変化に気をつけて見逃さないようにしています。不適切な言葉かけがないようお互いに気をつけています。年2回チェックリストを活用する等研修を実施します。	虐待チェックシートにて、全職員が虐待の兆候を見逃さない体制に努めている。また、管理者は、職員が心配事やストレス等を抱えていないか、日々コミュニケーションを図り、職員のメンタル面のサポートも行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市民後見制度2名、民間社団法人の身元引受人制度2名、それぞれ利用されています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面談の中で家族、本人の希望を聞きだし不安点が無いように対応しています。リスクの説明もします。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン更新時に意見の有無について尋ねます。オンライン面会でのお尋ねや個別にメール等で情報共有します。	家族には、毎週、利用者の写真をLINEで送っている。また、月1回、利用者の生活状況と事業所活動の報告を文書で送っている。家族の来訪も多く、家族の意見や要望を聞きながら、迅速な対応に努めている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に参加して意見交換の機会を設けています。意見、提案に対しては速やかに反映します。	ミーティングは、職員が自由に意見を言える場になっている。それ以外でも、管理者と職員は話し易い関係が出来ており、職員の気づきや提案を吸い上げ、運営に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	キャリアパス制度を活用して年に1度評価を行います。年2回の賞与寸志時に話し合う機会を設けます。	就業年数の長い職員が多く、管理者は職員個々の経験や得意な事を把握している。有給休暇の取得を奨励し、ワーク・ライフ・バランスにも配慮している。年2回、職員の個別面談の機会を設けている。	開設以来の経験豊かな職員が在籍している。現在は問題ないが、今後、職員の年齢も視野に入れながら、先を見据えた新たな人材育成についても着手されることを期待したい。
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人のスキルアップのため研修や資格取得を進めています。研修費や交通費等の支援を行います。	事業所内の勉強会には、全職員が参加している。また、外部研修への参加を推奨し、費用の支援も行なっている。参加後にミーティングで報告し、全職員がスキルアップできるよう、学んだ内容を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	協議会のメンバーと情報交換して分からない点等教えてもらいます。地域包括支援センター主催の研修に参加します。オレンジカフェの参加をします。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で荷物を運んでもらうことや洗濯物をたたんでもらう等できる事を一緒に行い時々は喫茶店に外出して共同生活をしています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事や外出の希望を尋ねて出来るだけ対応できるように支援しています。個別に喫茶店に出かけ気分転換を図ります。	利用者1人ひとりの思いや意向は、個別対応時の会話の中から探ったり、表情から推測している。把握した新たな情報は記録に残し、職員間で共有しながら、支援に活かしている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、スタッフが家族の意見を参考にし話し合います。訪問診療時の医師の助言、訪問看護での看護師の助言を参考にします。	家族の意見は、来訪時や電話、LINE等で利用者状況を報告した時などに聞いている。定期的にモニタリングを行い、医療スタッフの意見も聞いている。ミーティングやサービス担当者会議で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録を参考に改善点を介護計画に反映します。それぞれ職員にも意見を伺い参考にしています。	個別記録は手書きで行っている。日々の支援の中で職員が把握した事柄を記述し、次の支援に活かしている。職員は、業務に入る前に個別記録に目を通し、介護計画の実践に活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	眼科、整形外科等の専門医療機関への受診支援を行います。個別に喫茶店や観劇の参加をします。	眼科や整形外科等への受診支援を行っている。日常生活用品等の買い物も、家族に代わって支援することもある。福祉用具が必要になった時には、家族、業者、事業所で話し合い対応している。介護エステ費用の半分を支援する事も継続している。	

岐阜県 グループホーム柳ヶ瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別対応で外出支援ができるよう取り組んでいます。包括支援センター主催のオレンジカフェや弘法お参り等に参加しています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に内科嘱託医に訪問診療してもらいます。訪問看護や訪問歯科必要に応じてそれぞれ受診します。	入居時に、かかりつけ医について事業所の方針を説明し、利用者・家族が選択している。現在は全員が協力医の往診を受けている。日常的に訪問看護師による健康管理を受けながら、緊急時には協力医と連携し、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	専門医への定期的な受診で状態把握してもらい嘱託医とともに連携しています。介護サマリーの提供等連携しています。	入退院時の窓口は、代表者、管理者が担い、家族とも連絡を取り合いながら、利用者が安心して治療を受けられるよう支援している。病院と連携しながら、早期退院を目指して受け入れ態勢も整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本方針を説明して、最終的には医療機関と家族、ホームで方針を共有します。ホームでできる事を家族に伝え情報共有します。	利用者の状態に応じて 家族や医師と話し合い、意思を再確認しながら対応している。ほとんどの利用者・家族は事業所での看取りを希望しており、穏やかな終末期となるよう支援している。看取り後は振り返りを行っている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてミーティング時に話し合います。到着までの処置等マニュアルの確認を行います。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の年2回の計画と結果の消防署への報告。防災グッズの定期的な入れ替え。避難確保計画マニュアルの作成。BCP研修と訓練を年2回行います。	BCP研修及び避難訓練を行い、非常時の対応を繰り返して実践している。備蓄品は、事業所内で備蓄できない物や数量については、近隣のコンビニと話し合い、協力を依頼している。玄関に、利用者個々の非常持ち出しリュックを備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	説明して納得してもらっただけでなく、安心してもらえる言い方に気を付けています。役割を与えて「ありがとう」「助かります」等言葉かけをします。	長期入居の利用者が多く、職員との信頼関係ができているが、言葉遣いや態度が馴れ合いにならないように心がけている。利用者の尊厳を守りつつ、笑顔で穏やかに暮らせる支援に努めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や態度に気を付けながら対話を大切に傾聴しています。話しやすい雰囲気づくりに気を付けています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自のペースに合わせた時間配分として食事時間の遅い人には早めに食堂に来てもらう事や体調がいい日は少し長めに車椅子に座ってもらう等個別に対応しています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいもののリクエストには出来るだけ対応しています。お彼岸等季節感にも気配りして提供しています。月に1度お弁当を配達してもらいます。	利用者の希望を聞いたり、栄養士の助言を得ながら、三食手作りの食事を提供している。誕生日月の特別メニューや行事食、月1度弁当を取り寄せるなど、利用者の楽しみとなっている。職員も同じメニューを食し、味・量についても話し合いながら、利用者が満足できる食事の提供に努めている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には10時15時におやつ水分補給を行い、個別に必要な時はそれぞれ対応しています。材料を細かく刻んだり柔らかく調理して対応しています。月に一度栄養士から助言をいただきます。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ポリドントや口腔ケアスポンジの利用など個別に合わせたケアを行います。定期的歯科受診を受け歯科衛生士から助言をもらい対応しています。	月2回、訪問歯科医が訪れている。職員は歯科医の助言や歯科衛生士から口腔ケアの指導を受け、利用者支援している。毎食後の口腔ケアは、利用者自身で出来ることは見守りで支援し、出来ない部分を介助しながら、清潔保持に努めている。	

岐阜県 グループホーム柳ヶ瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中の失禁が軽減できるように早めの声かけをしています。立ち上がり等が難しい方は夜間ポータブルトイレを使用しています。立位難しい方は2人で対応しています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回を基本に体調によって柔軟に変更、また2人介助で対応しています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力が低下している人には入浴を考慮したり午後から希望者には休んでもらうように勧めています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりにファイルを作成して管理していません。服薬時に飲み忘れがないか確認します。	薬の管理は管理者が行い、服薬支援は食事担当者が責任持って行き、名前の確認と飲み終わるまでの確認で、誤薬や飲み残しを防いでいる。薬の変更があった場合は、利用者の様子を注意深く観察している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人で過ごしたい方、談話室で皆と一緒にいたい方それぞれに合わせた過ごし方をしてもらいます。音楽療法等の行事には全員参加してもらうようにしています。体操や希望の音楽を流す等タブレットを活用しています。	利用者の得意な事、やりたい事を把握し、日々の暮らしの中で役割として行えるよう支援している。役割りと楽しみごとの支援として、コーヒー好きな利用者には、豆を挽いて美味しいコーヒーを入れるなど、新しく始める予定としている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	オレンジカフェの参加や商店街の散歩に出かけます。全体活動として6月にマーサ21へ外出しました。	日常的に、柳ヶ瀬アーケードの商店街や金神社まで散歩している。また、ドライブで花見に出かけたり、大型ショッピングセンターや新県庁舎の20階展望ロビーへ行くなど、楽しめる外出を支援している。	

岐阜県 グループホーム柳ヶ瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に自分で支払いをされる方もいますしホーム任せで買い物を希望される方もいます。自分でお金を管理したい人は少額にして持たせています。移動スーパーで個別に買い物を楽しんでもらいます。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	オンライン面会では会話の調整を図ります。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	習字や折り紙、毎月の壁飾りを一緒に行い飾りつけをします。部屋に掲示される方もいます。	食堂と談話室が分けてあり、利用者それぞれが好きな場所で、自由に寛げる空間となっている。壁飾りや折り紙、習字作品を飾っている。共用空間は広くはないが、家庭的な雰囲気居心地よい場所になっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	部屋にいたい時と談話室にいたい時と本人の希望を優先させています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋担当者を決め、昔から大切にしているものや自分で作った作品と一緒に飾り付けしています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺や床材など必要に応じて関係者と相談して対応しています。		